

もっと ニュース

少人数でも頑張る 天瀬さん木刀寄贈



木刀を使った素振りをアドバイスする天瀬集さん

平川在住の天瀬集さんが、平川剣道スポーツ少年団へ木刀を寄贈されました。以前、流水小学校で剣道を教えていた天瀬さんは「剣道は体力が必要。まずは、体力づくりが大切」と木刀を使った素振りをアドバイス。剣士らは、今年の運動会で、頂いた木刀を使い剣道の型を披露するそうです。区でも活動費を助成し、地域の子どもの活動を支えています。キャプテンの小野原大樹くん（6年生）は「木刀で練習に励み、菊水旗争奪剣道大会で優勝できるように頑張りたい」と話しました。

屋根付きゲートボール場 利用者で整備



自分たちでコートを整備する利用者

町老人福祉センターいぬまき荘に隣接するふれあい広場が、利用者自らの手で整備されました。ふれあい広場は、町が管理する町内では唯一の屋根付きゲートボール場です。雨の日にもなると、町内各チームが練習に訪れます。これまで、コートの状態が悪くなく、ゲームにならないほどだったそうです。そこで、地元建設業者にボランティアで土の運び出しをお願いして、各チームや個人から寄付金を募り、利用者みんなで整備が行われました。湯之元ゲートボールチームの理事を務める東良子さんは「自分たちの手で良いコートができました。これからも、皆さんの理解と協力を頂きながら、自分たちで出来る範囲は、自分たちでやってみようと思います」と話されました。



杉の幹に巻き付くように伸びていく ツルアジサイ

町道上手大平線沿いの上 桝盛年さんが所有する山林の杉の木に、珍しいアジサイの花をつけていました。このアジサイは、ツルアジサイ（別名ゴトウツル）と呼ばれるもので、花は白く、杉の幹に巻き付くよう



ツルアジサイの花

ツルアジサイ天高く 上桝盛年さん所有の山林

に上へと伸びています。その高さは、約10メートルほどあります。妻のミチ子さんによると、10年ほど前から気づいていたそうで、自然と生息していたらしいです。このツルアジサイは、5月中旬から花が咲き始め、6月中旬まで楽しめるそうです。葉はノコギリ歯で多数あります。



井上町長へ新茶を贈呈する別府秀吉会長

町のPRにと新茶を贈呈 さつま町茶生産協会

6月3日、さつま町茶生産協会（別府秀吉会長他25人）の理事4人が役場を訪れ、奥さつま特有の霧のなかで育ったお茶「みやかお

り」のPRと地産地消のためにと、町へ新茶8kgを贈呈されました。別府会長は「味、香りとともに品質の良いお茶ができました。町のPRに役立ててください」とあいさつされました。井上町長は「頂いた新茶は、来客者などへ出して、本町の茶産地のPRに努めたい」とお礼を述べました。町への贈呈は今年で9回目となりました。

もっと ニュース

厚生労働大臣特別表彰



井上町長から表彰伝達を受ける受賞者

6月4日、永年にわたり民生委員・児童委員として、社会福祉の増進に貢献され、昨年11月30日をもって退任された久保数正さんと赤崎一幸さん、仮屋努さんに厚生労働大臣特別表彰が贈られました。

栗山善太郎さん 青少年育成で表彰

6月6日、鹿児島市で、鹿児島県子ども会育成連絡協議会定期総会が行われ、浅井野公民会の栗山善太郎さんが鹿児島県子ども会育成連絡協議会表彰を受賞されました。これは、地域や子ども会で長年にわたり実施してきた活動が青少年の健全育成や地域の活性化に大きく貢献していることが高く評価されたものです。



表彰状を持つ 栗山善太郎さん

紫尾小 大園康平くん銀賞受賞



銀賞に入賞した作品を持つ大園康平くん

5月28日、薩摩郡歯科医師会管内の小学校を対象にした歯の衛生週間コンクールの審査会が行われました。審査の結果、町内外38校の小学校から寄せられた282点の絵画の中から、紫尾小学校の大園康平くん（6年生）が銀賞を受賞しました。

国際交流で異文化学ぶ 鶴田中学校

6月3日、修学旅行で来日したシンガポールのイーストビューー中学校の生徒34人が、文化交流を行うため、鶴田中学校を訪れました。鶴田中学校の生徒は、五つ太鼓や剣道の型を披露し歓迎しました。両校の生徒は、手作りのメッセージカードや折り鶴などを交換したり、ダンスを踊ったりと交流を深めました。剣道の型を披露した片岡祐太郎さん（3年生）は「剣道の披露は緊張しましたが、異文化を知る良い機会となりました」と話しました。



メッセージカードなどを交換する生徒たち

地域で支えよう 安心ネットワーク研修

5月23日、薩摩農村環境改善センターで、在宅福祉アドバイザー民生委員等合同研修会が開催されました。研修会では、災害時要援



在宅福祉アドバイザー民生委員等合同研修会の様子

護者避難支援制度について説明が行われました。この制度は、災害が起きたとき、自力避難が難しく第三者の支援を必要とする方が、支援に必要な個人情報や公民会や民生委員などと共有し、地域の協力体制の整備を進め、災害のとき支援活動に活用するものです。この制度に先立ち、井上町長から「平成20年度在宅福祉アドバイザーの証」を受領した269人は、地域福祉の推進とアドバイザーの活動業務などについて説明を受けました。